

情報提供Ⅱ

施設での結核対応について

備中保健所井笠支所

本日の流れ

01 / 結核の基礎知識

02 / 結核の感染経路

03 / 結核の発病

04 / 結核の発症部位

05 / 結核の症状

06 / 対応事例

07 / 結核発生時対応

08 / 接触者健診について

01 / 結核の基礎知識

結核とは…

- ✓ 結核とは、結核菌を吸い込むことによって感染し、
身体の抵抗力(免疫)が弱い時などに、菌が増えて発病する慢性感染症。
- ✓ 今でも1日に28人の新しい患者が発生し、**5人が命を落としている**日本の大変な感染症である。
- ✓ 備中保健所管内結核患者の約6割が70歳以上の高齢者、残りの約3割が外国出生者である。
- ✓ 結核菌の分裂速度は、大腸菌などに比較して遅いため、感染がわかるまで2~8週以上かかる。
- ✓ 発病までの期間は、早くても感染後3~6か月以降となることがほとんど。

02 / 結核の感染経路

結核は飛沫核感染(空気感染)する

結核を発病して菌が肺などで増えると、
咳やくしゃみに菌が混じって体外にでるようになる。



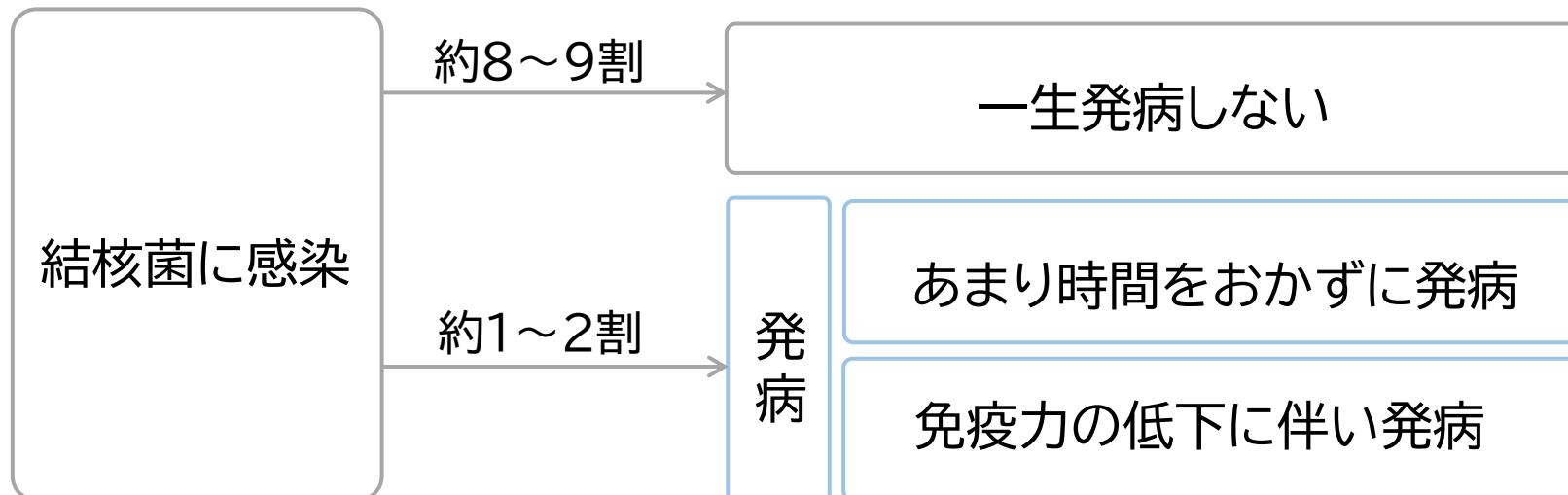
咳やくしゃみにより、結核菌に混じったしぶき(飛沫)が飛散し、
その水分が蒸発すると、結核菌だけの飛沫核になる。

飛沫より小さい飛沫核は肺の奥まで到達しやすく、
これが結核の感染を起こすため、
結核は、**飛沫核感染(空気感染)**と言われる。

03 / 結核の発病

結核の感染と発病は異なる

- ✓ 結核の発病とは、身体の中の菌が増えて、胸部X線検査で肺に影が見えたり、痰に菌が混じったり、咳や微熱などの症状がでる状態。
- ✓ 結核に感染後、発病する方は感染者の約1～2割。



発病者が

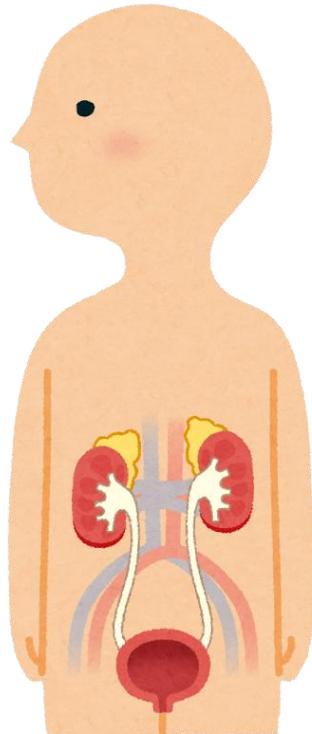
- 正しく治療すること
- 耐性菌を作らないこと

が結核を根絶させるためにとても重要である。

- ・感染後2～3年までに発病
- ・免疫力が弱い乳幼児や若年者に多い
- ・免疫力が落ちた時に発病
- ・高齢者に多い

04 / 結核の発症部位

結核は全身感染症である。そのうち肺結核が8割を占める



- ・結核性髄膜炎
 - ・中耳結核
 - ・咽頭結核
 - ・気管、気管支結核
 - ・全身粟粒結核
 - ・結核性胸膜炎
 - ・骨・関節結核
 - ・結核性腹膜炎
- など

空気感染する結核…
人から人に感染する結核は、
肺結核
気管支結核
咽頭結核等の外気に排菌される結核

05 / 結核の症状

肺結核の症状は分かりづらい

- ✓ 肺結核の症状は、風邪等の呼吸器系の病気の症状とよく似ている。
- ✓ 咳・痰、血痰、微熱、胸痛、体重減少、倦怠感等
「よくなったり悪くなったり」しながら症状が進行する



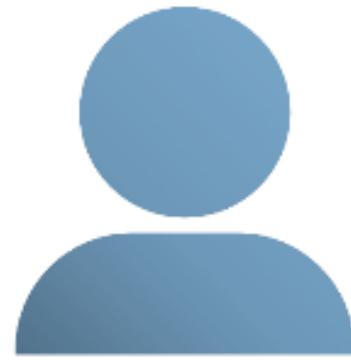
高齢者は免疫力や身体機能の低下から、
発病しても、**咳や痰等の特徴的な症状がないこともある。**

食欲低下、
微熱の継続、倦怠感、
なんとなく元気がない、体重減少 にも注意が必要！

06 / 対応事例 I

症状出現後 速やかに受診した事例

Aさん



診断時の所在

高齢者施設

年代

90代

診断名

肺結核

既往歴

アルツハイマー型認知症

X年
・高齢者施設入所

X+3年1月
・発熱・食欲不振(+)・発熱・食欲不振の症状があり、A病院へ入院
・右胸水貯留(+)・入院時に喀痰検査実施
塗抹(−)、PCR(−)、培養検査は実施せず

X+3年3月
・胸水は改善しないが、状態が安定しているため退院
・発熱・食欲不振(+)・退院後翌日、発熱・食欲不振があり、B病院へ入院

・肺結核と診断
・喀痰検査実施 塗抹(−)、培養(+)、PCR(+)
・疫学調査の結果、接触者健診の対象に該当する者はおらず
感染の拡大は確認されていない

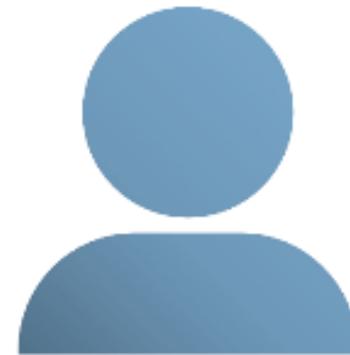
★ココがポイント！

症状に気づいた場合には
早期に医療機関を受診する
ことが大切◎

06 / 対応事例Ⅱ

定期健診にて 結核が発見された事例

Bさん



診断時の所在

高齢者施設

年代

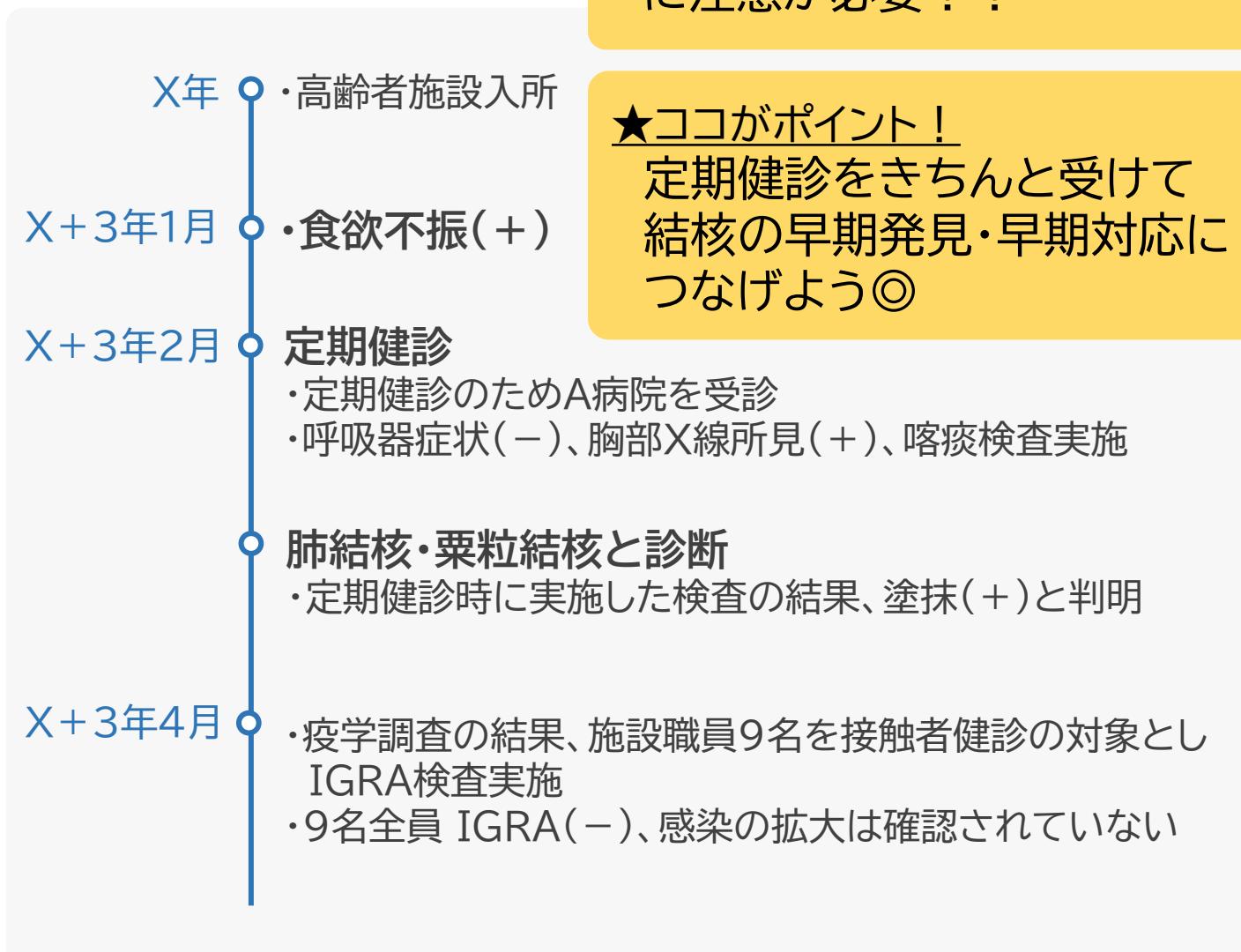
70代

診断名

肺結核、粟粒結核

既往歴

食道癌



★ココがポイント！

「食欲不振」などの体調変化
に注意が必要！！

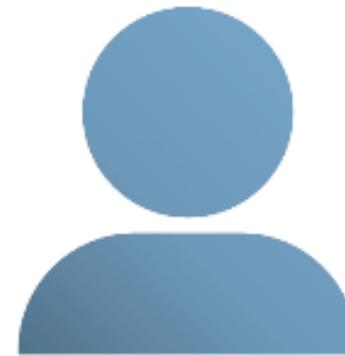
★ココがポイント！

定期健診をきちんと受けて
結核の早期発見・早期対応に
つなげよう◎

06 / 対応事例Ⅲ

外国出生職員が 結核と診断された事例

Cさん



年代

20代

診断名

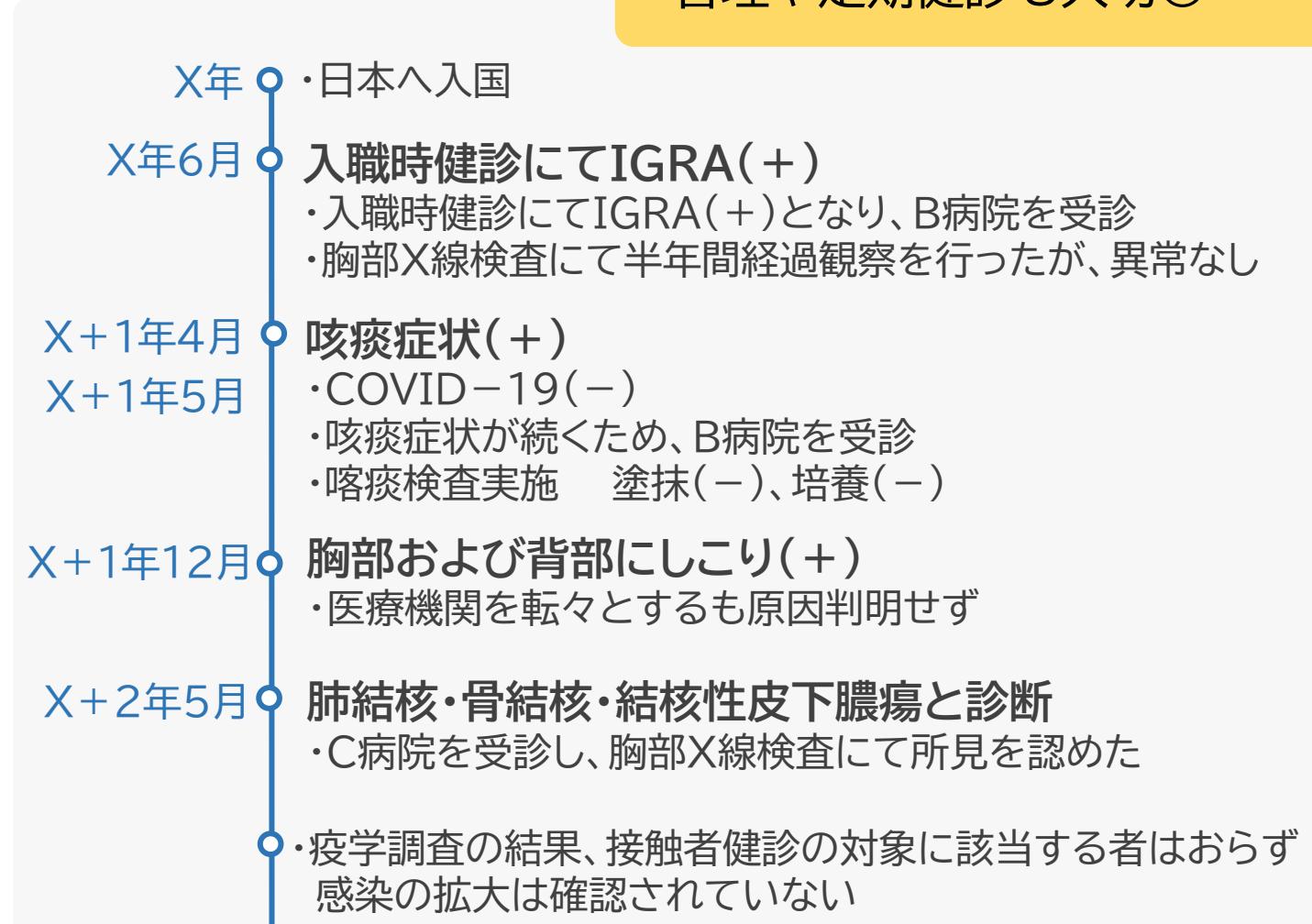
肺結核、骨結核、
結核性皮下膿瘍

既往歴

なし

★ココがポイント！

利用者だけでなく職員の健康管理や定期健診も大切◎



07 / 結核発生時対応

利用者の結核を疑う時の施設職員の対応

1 医療機関へ車で搬送する時の感染予防

- ・結核(疑い)の方は、サージカルマスク(以下、マスク)を着用する
- ・使用済みマスクやティッシュなどはビニール袋に密閉し処分する
- ・激しい咳が出る時は、できれば本人がタオルを持ち、マスクの上から鼻と口を覆う
- ・車の窓を開け、換気を行う

2 患者の使った部屋や物品について

- ・部屋の窓を開けて換気を十分に行う
- ・薬剤やアルコールを使って消毒する必要はない
- ・通常の掃除や洗濯、食器洗いを行えばよい



07 / 結核発生時対応

保健所が初回面接および治療中の服薬確認（DOTS）を施設職員の協力を得ながら行う

✓ 患者との初回面接実施（感染性あり：3日以内、感染性なし：7日以内に実施する）

初回面接で聞き取るポイント（患者本人または施設職員）

- ・病状の経過
- ・既往歴、合併症（結核治療歴、治療中の病気、結核の危険因子*）
- ・過去の検診歴（胸部X線検査、BCG歴）、最近の定期検診状況
- ・思い当たる感染源（家族歴など）
- ・生活歴（ADLレベル、行動範囲、生活環境、収入源）
- ・濃厚接触者（同室者、面会者、対応職員、有症状者の有無）
- ・保険の種類 など

*免疫抑制剤の使用 など

08 / 接触者健診について

保健所が疫学調査を実施し、必要に応じて接触者健診を実施する

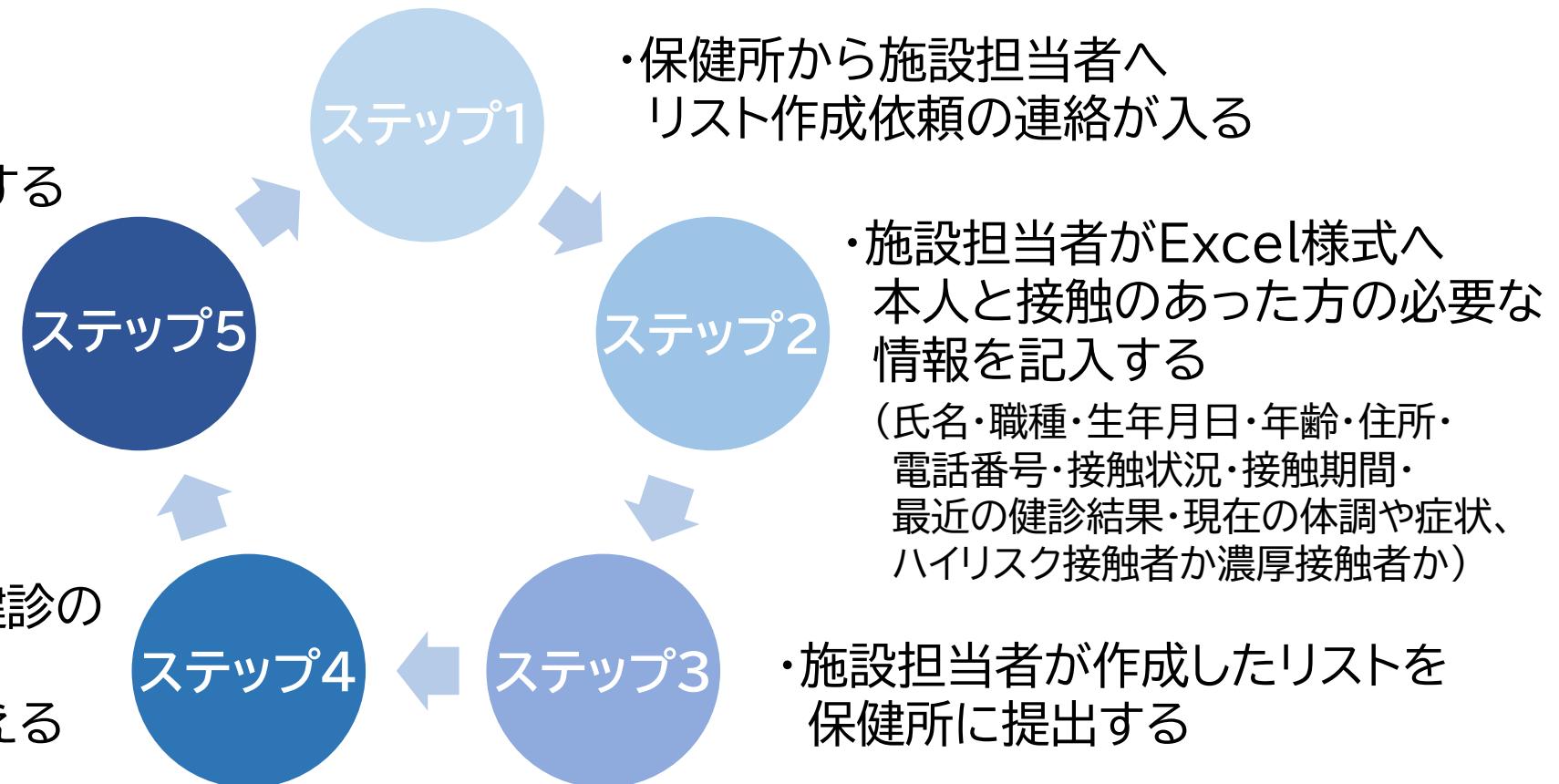
- ✓ **目的** 接触者健診は、今回診断された患者から感染した人や発病した人がいるか、また、以前より発病していて排菌している人がいるかを調べ、感染や発病を早期に発見し、結核の感染拡大を防止する。
- ✓ **主な検査** 感染の有無を血液検査(IGRA検査)で、発病を胸部X線検査で調べる
*雇用時にIGRA検査を実施しておくことで、
ベースライン(もともと結核菌の感染はないこと)の確認ができ、
最近の感染かどうかを判別できる。
- ✓ **時期** 患者の病状や接触状況、施設の定期健診実施状況などにより、適切な時期に保健所が実施する。
結核に感染後、血液検査で感染が分かるようになるまで、3ヶ月ほどかかる。
結核はゆっくり発育するため、あわてて検査を受ける必要はない。

08 / 接触者健診について

保健所から施設に依頼する内容 ～リスト作成から健診までのステップ～

- ・保健所と調整して
対象者が医療機関を受診する

- ・保健所が決定した接触者健診の
対象者・時期を
施設担当者が対象者に伝える



参考

高齢者施設・介護職員対象の結核ハンドブック(2016年7月)
公益財団法人結核予防会結核研究所 対策支援部保健看護学科編
<https://jata.or.jp/rit/rj/Taisaku高齢者施設・介護職員対象の結核ハンドブック.pdf>

